

1. 事業の位置付け

事務事業名	里山保全推進事業		
事業担当	環境部 環境政策課		
予算科目	01-040104-040000	事業種類	● ハード      ○ ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	01	① <自然との共生> 四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等	平塚市環境基本条例		
対象・受益者	市民、事業者、行政などすべてのもの	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： 市民、市民活動団体、大学、学校】		
目的・目標		事業の概要	
里山を復元するとともに、復元された里山を、自然とのふれあいや憩いの場、また生産の場として活用し、自然環境保全活動が活発に行われています。		自然環境評価結果に基づき、西部丘陵地域の自然を保全するため、市民や市内の大学と協働による里山の手入れや里山モデル地区での活動などを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	里山保全活動開催回数						単位	回
	説明・算定式	里山保全協議会、大学交流、子ども環境教室の開催回数							
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績			7	7	8			
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	里山保全活動参加者数						単位	人
	説明・算定式	里山保全協議会、大学交流、子ども環境教室の活動参加者数							
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績			400	450	500			
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成19年度の主な取組と成果									
用地交渉を重ね里山保全モデル事業用地を拡大した。組織体制の確立のため、地権者、環境保全団体、小学校、有識者、農業委員への参加を呼びかけ里山保全協議会を設立し、市民ボランティアと散策路の整備、下草刈り等を実施した。地元自治会、山林・農地地権者を対象に事業説明会を開催した。庁内里山推進会議では事業計画を研究した。市民大学交流事業や子ども環境教室を市民、大学、自然環境保全団体と協働で実施した。これらにより自然環境保全活動が活発に行われた。									
平成19年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input checked="" type="checkbox"/> その他	近年、生活様式の変化や農家の減少・高齢化等を背景に里山の管理が適切に行き届かず、その恵み多き機能が失われてきている。行政自らが里山を次世代に引き継いでいくため荒廃した里山の保全・再生・活用を促進する。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	社会経済活動における便利さや豊かさの追求は、地球環境に大きな負荷を与え、地球温暖化対策が喫緊の課題である。継続的・持続的に実施される里山の再生・保全の活は、地球温暖化の寄与するものである。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	保全・再生をする里山の範囲の拡大に伴い、ボランティア組織の養成、活動団体への運営費及び資器材購入費補助制度の充実が望まれる。職員体制の見直しが急務である。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	行政による民地(山林)の賃貸借を発展的に解消する。取組の主体を地権者と活動団体との協定による地域住民、活動団体等による活動体制への移行をめざす。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
<b>今後に向けた課題の分析</b> 里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が必須である。地元住民の参加を得られていない状況に鑑み、土屋地区里山モデル事業を継続して実施する一方、説明会を定期的に開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図る。				

## 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成17年度 決算額	平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 予算額	平成21年度 計画額	平成22年度 計画額	平成23年度 計画額
事業内容				協議会の開催及び 里山保全活動の実 施	協議会の開催及び 里山保全活動の実 施	協議会の開催及び 里山保全活動の実 施		
財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	526	526	692	0	0
事業費 (A)		0	0	526	526	692	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	94.60				
内 訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.70	0.65	0.65	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	5,874	5,455	5,455	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	6,400	5,981	6,147	0	0

## 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成21年度の事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<b>&lt;判断理由&gt;</b> 市民や大学生、ボランティア、市民活動団体等の活動が広がってきており、西部丘陵地域に残された貴重な自然環境を次代に引き継ぐため荒廃山林等の里山保全・再生・活用の取組が必要である。地元自治会、地権者の理解を得ることにより、事業用地の拡大を図る。	
<b>平成21年度の取組方針</b> 市民を主体とした継続的な里山保全活動の促進を図る。地元自治会や土地所有者の里山保全協議会への参加を促し、自然環境保全の必要性・重要性について、市民との合意形成を図るため、自治会及び地権者集会以での事業説明会を随時開催する。また保全計画に基づき、里山の整備を進める。	
課長コメント	荒廃した里山を保全・再生・活用するため、市民活動団体、地元自治会や大学等地域社会との協働により、引き続きモデルケースを検証し、里山の整備を進めていきたい。